



学校だより

深谷

令和5年5月31日

6月号

横浜市立深谷小学校

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fukaya>

自己有用感

校長 石原 加代子

様々な制限が緩和され、学校生活にも少しずつ変化が見られ、全校で集まって活動する機会が増えました。当たり前だったことができる喜びを噛みしめています。

本校では、たてわり活動や異学年交流の豊かな関わりを通してつながりを深め、人間関係力の向上を図るとともに、自己有用感や自尊感情を高めることを目指しています。その大きな行事の一つである全校遠足では、学年に応じた目標を意識しながら、ルールを守ってポイントラリーを楽しみました。特に6年生はみんなが楽しんでいるか、困っていないかなど、常に気を配りながら行動していました。少し紹介しましょう。

昼食後に雨が降り始め、レインコートを着ようとしていた1年生が困っていると、6年生が卒なくボタンをかけ、ねじれたフードも直してあげました。おかげでその子は安心した表情に戻り、6年生は何とも言えない笑顔を見せました。心が温まる素敵な光景で、絵本的一幕のようでした。別の班では高学年がそばにいなかったため教師がレインコートに袖を通すのを手伝っていると、戻ってきたリーダーから「ありがとうございます」と言われました。自分がやるべきことと自覚して発した、爽やかな挨拶に嬉しくなりました。

学校に向かって歩いていると、歩くペースが遅くなった1年生に、「少し手伝うね。」と言って、手をつなぎ、歩き始めました。すると、引っ張ってもらおうと後傾姿勢になった1年生に、「もたれかからないで自分で歩くよ。あと少しだよ。」と、励ましたのです。思わずやってあげたくなることがありますが、自分ができることは自分で頑張る方がその子の成長にもつながります。本当の優しさを理解し、程よく助ける姿勢にも感心しました。

ふり返りでは、学年に応じた目標を達成できた喜びが多数見られました。大変さを感じながらも班をまとめ、自分の役割を果たした達成感、下級生から頼られ、自分が必要とされているという自己有用感をもったことでしょう。また、下級生は、自分が大事に思われていることを感じたことでしょう。人との関わりを楽しみ、自分も友達も好きになってほしいと思っています。上級生が下級生に注ぐ眼差しは慈しみにあふれていました。下級生からは、「ありがとう」という言葉がよく聞かれました。感謝の気持ちを素直に「ありがとう」と、言葉で伝えることができることも素敵なことです。

放課後の職員室では、子どもたちの素敵な姿を語り合い、幸せそうな笑顔や責任を果たそうとする真剣な表情を思い出し、私たち教職員も幸せな気分を味わいました。これからも、様々な豊かな関わりを通してつながりを深めながら、一人ひとりの自己有用感や自尊感情を高めていくよう教職員一同尽力してまいります。

引き続き保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。